

第52回資源環境審議会 意見対応表

NO.	資料番号	頁	意見	対応内容
1	資料2-2	P2	将来像の図ですが、区民、事業者、区の取組が、一体となって将来像が実現するというイメージが弱いように思います。区民の取組、事業者の取組、区の取組の枠(現在角丸の四角)を円にして、互いに重なり合うように描くなどして、3者の取組が一体となって進んでいくようなイメージの図としてはいかがでしょうか。	資料2-3のP12の将来像の図も含めて、改善に向けて検討してまいります。
2	資料2-3	P2	「本計画で対象とする温室効果ガスの概要」の表があると読み手に取ってとっつきにくくなるので、資料編に回した方が良いと思います。	資料編の資料1「1 地球温暖化の仕組み」の後半に移動する方向で検討いたします。
3	資料2-3	P4	「コラム1 国連気候変動枠組条約第24回締約国会議(COP24)への参加」のコラムも付加価値が少ないので、資料編に回した方が良いと思います。本文はできるだけ絞ってページが少ない方が、区民にとっては理解しやすくなると思います。	資料編の資料1「3 区の取組」に移動する方向で検討いたします。
4	資料2-3	P8～P10	本文「このうち、板橋区において、重要と考えられる分野・項目や「重大性」、「緊急性」、「確信度」が特に大きい、または高いと評価された分野・項目とその影響について抜粋しました。」および表「気候変動による影響評価」についてこれらは資料編に回して、ここでは板橋区にとってハイライトすべき代表的なリスクと影響について、いくつかわかりやすく文章で示した方が良いと思う。	P11に一部記載していますが、洪水や熱中症についてハイライトするようにして、そのリスクと影響を紹介するようにいたします。表については、資料編の資料1「1 地球温暖化の仕組み」の後半に移動する方向で検討いたします。
5	資料2-3	P11	本文の一部「また、近年、自社が関係するサプライチェーンやバリューチェーンの脱炭素化を目指す企業が現れています。これらの企業では、取引条件に再生可能エネルギーの利用等を求めてきており、対策をしないことがビジネス機会の喪失のリスクとなっています。」について記載位置を本文後半部分へ移す。	P11の本文については、新型コロナウイルス感染拡大の影響も加筆する方向で考えているため、その中で併せて当該箇所の記述の最適な位置を検討いたします。
6	資料2-3	P12	内容が十分精査されていないため、判断しようにないところもあるが、1)～3)の重要な点についての確認が無い限り、了承できない。 1)計画の将来像について「気候変動に対応し、地域とともに作る脱炭素社会」とある。これは地域循環共生圏の考え方等でよく使われている表現だが、板橋区の文書としては、何を「地域」と指しているのか明確ではない。自治会等の区内コミュニティあるいはより小さい単位を指しているのであれば、そう明示してほしい。「地域とともに」という書きぶりからはそう捉えているようにうかがえる。 一方、政府の文書で用いられているような市区町村という文脈で、板橋区内の活動を一体化した、いわゆる「オール板橋」的なことを意図しているならば、それを強調してほしい。 いずれにせよ、ここで「地域」という表現を用いるのは不適切だと感じる。	計画の将来像については、区はもとより、板橋区域内の区民や事業者、団体など、2050年の脱炭素社会の実現に向けて取り組むべき各主体を総称して「地域」と表現したのですが、さらにブラッシュアップしてまいります。因みに、現行の板橋区地球温暖化対策実行計画(区域施策編)における望ましい都市像は、「地域とともに低炭素社会をきずく～環境「協創」都市 板橋～」となっております。

第52回資源環境審議会 意見対応表

NO.	資料番号	頁	意見	対応内容
7	資料 2-3	P12～ P16	<p>将来像の設定と目標・施策体系については概ね適切であると考えます。</p> <p>2020年初頭からの新型コロナウイルスの世界的な大流行を受けて、人為的な活動による地球環境への過剰ストレスが人類の生存及び社会経済活動にもたらすリスクの高まりへの注目が集まっている。気候変動に対する緊急かつ大規模な行動の必要性を、今一度こうした文脈の中で位置づけ、区民・事業者・区が果たすべき役割をより明確化することで、より参加型で実効性のある計画となる可能性がある。</p> <p>気候変動リスクと感染症リスクの「発生確率」と「影響の大きさ」に着目した比較については、『グローバルリスク報告書2020年版』中の図「2020年のグローバルリスクの展望」などが参考となる。 https://www.marsh.com/jp/ja/insights/research/global-risks-report-2020.html file:///C:/Users/otsuka/Downloads/wef-global-risks-report-2020-global-riskslandscape.pdf</p>	<p>新型コロナウイルスのパンデミックを受け、アフターコロナ、withコロナと言われる今後の社会において、人類や文明にとってのもう一つの危機である気候変動に対して如何に取り組んでいくべきか、計画にも盛り込めるよう検討してまいります。</p>
8	資料 2-3	P16	<p>内容が十分精査されていないため、判断しようがないところもあるが、1)～3)の重要な点についての確認が無い限り、了承できない。</p> <p>2)削減目標について 実務上の状況は理解するが、計画目標を示さない段階では、施策体系と取組について充分であるかを判断することはできない。だから、これを了承することはできない。</p>	<p>計画目標については、骨子の段階ではお示しできませんでしたが、7月以降にお示しできると考えています。</p> <p>2050年に二酸化炭素排出量の実質ゼロをめざす中で、2025年の計画目標が実効性のあるものとなるよう、施策体系と取組についても、さらに検討を深めてまいります。</p>
9	資料 2-3	P16	<p>削減目標は、P11にある「産業革命前から今世紀後半までの気温上昇を1.5℃に抑えるための緩和策に加え…」という表現と関連させるべき。</p>	<p>資料編の資料1「2 地球温暖化対策に関する国際動向」にある「表 パリ協定の概要」のとおり、パリ協定では平均気温の上昇を1.5℃に抑えるための目標として今世紀後半に温室効果ガスの排出と吸収のバランスをとる(実質ゼロ)こととしており、P11の記述はこれに準拠しています。</p> <p>この旨、P16の削減目標の説明にも追加したいと考えています。</p>
10	資料 2-3	P16	<p>削減目標は、2050年ゼロからのバックキャストで何%削減が必要かを考慮して決める必要がある。その際には、電気の排出係数低減による削減分を考慮すること。</p>	<p>現在精査しております。</p> <p>対応するよう検討いたします。</p>
11	資料 2-3	P17	<p>ごみの減量については、「ごみの減量・適正リサイクル・コンポスト化」などの項目として、廃棄物に関する減量以外の取組の効果を意識できるようにすることが好ましい。(P17、P19)</p>	<p>検討いたします。</p>
12	資料 2-3	P17～ 18 P19～ 20	<p>将来像の実現に向けた取組について 区民の取組として、従来の「こまめに電気を消す」などの行動から「再エネの購入」、「新築時・改築時の省エネ・ZEH 投資」などの本質的な取組に推奨項目が移ったことを大きく評価する。(P17-18) 事業者の取組についても同様。(P19-20)</p>	<p>より良い計画となるよう、さらに検討を重ねてまいります。</p>
13	資料 2-3	P17～ 20	<p>「取組、取組メニュー」の表について、施策の羅列であり、優先順位が不明。それぞれの削減効果を定量的に示すか、特に効果的な施策を具体的に説明し、示すべき。IGES1.5度レポートは参考として活用できると思います(現在、空欄の施策がしっかり書かれれば問題ないのかもしれないですが)。</p>	<p>空欄になっている施策の記載も含め、効果的な施策を示していけるよう、検討してまいります。</p>

第52回資源環境審議会 意見対応表

NO.	資料番号	頁	意見	対応内容
14	資料 2-3	p17～ p18	区民の取組として、「1. 環境に配慮したライフスタイルの実施」と「2. 環境に配慮した住まいづくり」が挙げられていますが、いずれも、区民が個人として取り組む内容で、区民が協働して環境に配慮したまちづくりに取り組む活動が十分に反映されていないのではないかと思います。「板橋区環境基本計画2025」においても「パートナーシップが支えるまちの実現」が基本目標として掲げられており、「区民協働による環境まちづくりの推進」というような視点があっても良いのではないのでしょうか。	対応できるよう検討いたします。
15	資料 2-3	P17～ P20、 P27～ 28	これらの取組メニュー(P17-20)については、それぞれのカテゴリーにおいて取組効果の大きいものから順に並べるなどの工夫ができると、さらに良い。同様に省エネ対策事例(P27-28)についても、原典を加工するなどして、削減効果の大きいものから順に並べて示すなどの工夫ができると、さらに良い。	工夫するよう検討いたします。
16	資料 2-3	P17～ P20・ P23	背景をコンパクトにまとめ、身近に起こりうるリスクに複数ページを割いた構成でわかりやすいと思う。しかし、具体的な取組を示す本編第3章の内容が気候変動の緩和策に重点が置かれており、適応策についての記述が少ないと感じる。緩和策は区の取組として位置付けられているが、区民や事業者の取組(例えば、グリーンカーテンや雨水貯留の導入、ハザードマップをチェックするなど)も必要ではないだろうか。そして、その取組を区が支援するという位置付けで23頁の区の基本方針Ⅴを記載してみてもどうか。骨子案としては了承するが、上記改善を検討してほしい。	改善に向けて検討してまいります。
17	資料 2-3	P19	事業者の省エネルギー行動(P19)では、都のキャップ&トレード及び報告書制度(P47)への積極的参加を推奨するなど、都と区による一体的な取組メニューの提案が望まれる。	検討いたします。
18	資料 2-3	p19～ p20	事業者の取組としても同様に、地球温暖化対策をビジネスチャンスとして、スマートシティ型の環境配慮型事業を振興するというような視点があっても良いのではないのでしょうか。	対応できるよう検討いたします。
19	資料 2-3	P21～ 23	内容が十分精査されていないため、判断しようがないところもあるが、1)～3)の重要な点についての確認が無い限り、了承できない。 3)取組について 具体的な内容について触れられていないが、枠組を見る限り、現在の計画における記載と大差ないように見受けられる。繰り返しとなるが、それで十分であるかどうかについては判断できない。また、パリ協定やSDGsを十分考慮に入れるのであれば、より包摂的な取組が求められる。市民との協働だけでなく、住民の行政参加(事業提案制度の制定など)や脆弱性を意識した取組、事業者の社会貢献など、過去の計画策定時のように単純に「区」「区民」「事業者」と分けられるような情勢ではないと考える。	パリ協定やSDGsを十分考慮に入れ、より包摂的な取組が盛り込めるよう検討してまいります。

第52回資源環境審議会 意見対応表

NO.	資料番号	頁	意見	対応内容
20	資料 2-3	P21～ 23	<p>私は、「NPO法人センスオブアース」に属しており、年間40～50回小中学生を相手に授業をしている。</p> <p>①「食べ物はどこから」(小学高学年)</p> <p>チラシを見て、普段食べているものはどこから来ているのかを調べる。日本全国各地から、そして海外からも来ていることがわかる。</p> <p>それらを輸送するのに大量のCO₂を出している。→環境に良くない。</p> <p>そこで自分の住んでいるところに近いところで作ったものを食べるようにしようと話しかけ、地産地消を勧めている。</p>	都市農業を所管する部署と調整し、地産地消に関する施策を検討します。
21	資料 2-3	P21～ 23	<p>②「50年後の板橋を考えよう」(中学生)</p> <p>はじめに100年前の板橋区の気温の変化を見せ、今後どうなるかを考えさせる。</p> <p>→もつと温暖化が進む……(略)</p> <p>最後に、50年後はどんな街にしたいか、夢や希望を考えさせる。</p> <p>→そのための自分の課題を見つけさせる。</p> <p>→今の生活で実行できることは何かを見つけさせる。</p> <p>以上のように、我々大人だけでなく、未来を担う子どもたちにも意識付けをしたいと考えている。</p>	より低年齢の子どもたちにも環境教育を提供する機会を増やしていくなど、未来を担う子どもたちへの意識付けに資する施策を検討してまいります。
22	資料 2-3	P22	<p>「基本方針Ⅲ エネルギーの効率的な利用と環境産業の発展」について。</p> <p>「基本方針Ⅰ 区民の取組への支援」や「基本方針Ⅱ 事業者への支援」に同じ内容が含まれていると思うのだが、ここで別立てにする意義が分からない。環境経営の促進や環境産業の振興も「事業者への支援」に含まれるのではないかと思う。</p>	施策体系と取組についても、さらに精査しブラッシュアップしてまいります。
23	資料 2-3	P22	<p>「基本方針Ⅳ クリーンで快適なまちづくり」について。</p> <p>「区民の取組への支援」、「事業者の取組への支援」と、「区の取組」という3分類ではないでしょうか。その際、板橋区地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の内容も取り入れて示すことが必要だと思います。その上で、ここに書かれているインフラ整備やごみ関係の記述も含めては如何でしょうか。</p>	施策体系と取組についても、さらに精査しブラッシュアップしてまいります。
24	資料 2-3	P25	<p>コラム4「省エネを自動化しよう」について。</p> <p>「区民の取組への支援」の中で、省エネと関係する部分に置いた方が良いと思う。</p>	対応するよう検討いたします。
25	資料 2-3	P25、 P26 P48～ 49	<p>全体の構成が良くなり、読みやすく理解が得やすく感じる。コラム4、5の差し込み、ゼロエミッション東京戦略の挿入も良い。</p>	引き続き、読みやすい計画となるよう検討してまいります。
26	資料 2-3	P26	<p>コラム5「地球にやさしい電気を選ぼう」について。</p> <p>「区民の取組」の、電気の選択について記述した施策のところに置くべきだろう。</p>	対応するよう検討いたします。
27	資料 2-3	P27、 P30	<p>「(1)区民(家庭)の省エネ対策事例」について。</p> <p>「区民の取組への支援」のところに置くべきではないか。</p> <p>「(2)事業者の省エネ対策事例」について。</p> <p>「事業者の取組への支援」の部分に記載すべきではないか。</p>	対応するよう検討いたします。
28	資料 2-3	P31	<p>コラム7「地球温暖化に関する緩和策と適応策の相乗効果～緑のカーテン～」について。</p> <p>「区の取組」の部分に置くべきではないか。</p>	対応するよう検討いたします。

第52回資源環境審議会 意見対応表

NO.	資料番号	頁	意見	対応内容
29	資料2-3	P33	<p>コラム8「再生可能エネルギー機器の導入ポテンシャル」について。 「区民の取組への支援」の、屋根置き太陽光の促進に関する記述のところに置くべきではないか。</p>	<p>対応するよう検討いたします。</p>
30	資料2-3	P56	<p>(2) 温室効果ガス総排出量 8行目 HFCsに関して、[変更案]の例示 「[近年、HFCs]ハイドロフルオロカーボン類は増加傾向にあ[るため推移を見守る必要はあ]りますが、[このガス]二酸化炭素を含む[温室効果ガス総排出量]その他のガスは概ね[近年]減少傾向にあります。 理由：板橋区の温室効果ガスの総排出量は、本文P56記載のデータによると、独りHFCsのみが増加しており、36.0%増と顕著である。このことは今回、論考しないで済ませられる状況下にはないと思われる。(量的には小さいので、骨子案での表現にとどめる扱いにしたのだと思う。)少なくともこの報告書でも注視している姿勢は示す必要があると思料する。 報告書に記載することによる意義：わが国ではこの種のガスの放出規制の扱いは(国の責任において)事業者による回収にかかっているという建てつけになっている。(はずである。)(国の指導により)我が国の政府および業界団体が既に取り組んでいるこの世界的な自主的ルール※をこの【中間のまとめ】に記載することにより、当審議会はこの問題を注視していること、区民に区政の姿勢をアピールすることができることのほか、区内事業者に対しては新たな負担を強いるのではなく不断の努力として自主的ルールに則った扱いを引き続き努力するよう注意喚起的な意味合いを持たせた呼びかけとして位置付けられる。</p>	<p>対応するよう検討いたします。</p>
31	資料2-3		<p>計画本編が大幅に削減されたように見えるが、まだ区の取組(施策)の施策が作成されていない。だから、今後頁数が大幅に増えるのならば、全体の頁数を減らすことが必要だと思う。</p>	<p>区の取組(施策)の分量としては、20~30ページ程度を予定していますが、引き続き、読みやすい計画書となるよう工夫してまいります。</p>
32	資料2-3		<p>計画の全体構成について 計画の目的、将来像と計画の目標、具体的な取組の例、区民・事業者・区の役割分担などが体系的に示され、全体としてバランスの良い構成だと考える。より多くの情報を共有するために「資料編」を設けたことも評価される。 区の取組(施策)や重点施策などの、今後作成予定箇所については、計画の目的・目標を達成する上での重要な要素となるため、今後の丁寧な作り込みに期待する。</p>	<p>今後作成を予定している箇所についても、丁寧な作り込みとなるよう努めます。</p>